

NPO法人

第74号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578

TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

芦安登山教室 参加者の声

～第50回 北岳 お花畑めぐり～

2日間コース(7.10-11)

工藤 重治さん(静岡県島田市)

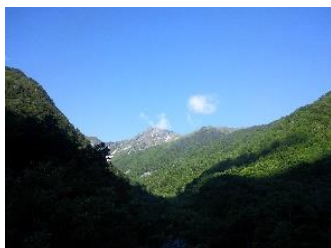
思いがけない幸せを表現する言葉の一つに「棚から牡丹餅」というのがありますが、今回の第50回北岳は私にとって「棚から松坂牛」のような幸せの連続でした。

前日までの続く雨から展望はないだろうし、花も今ひとつとの予想が大幅に外れ、肩の小屋での真っ赤なご来光、頂上からの360度の大展望、そして雷鳥との出会い、キタダケソウ、クロユリ、さらに左俣では霧の中雪渓を長時間歩く機会にも恵まれ、盛り沢山の登山教室でした。その分下山時間が遅れましたが、ガイドの望月・富山さん、留守を預かる会長・山岳館の皆さんの配慮の中、安全に帰ってこられました。

肩の小屋のご主人のウェルカムドリンク、広河原山荘のカレー美味しかったです。

ジャンボタクシーの運転手さん、待っていただきありがとうございました。

最後に芦安ファンクラブ20周年おめでとうございます。記念品のスタッフバッグ・高山植物の本も頂き幸せのダメ押しです。



小林 圭一さん(埼玉県所沢市)

開花が遅れている山岳館の紫陽花。山の花は？と漠然と思いながら、この連雨を喜ぶ花を横目に見ながら予定通り出発した。広河原までの車のバウンド、横揺れ等何となく身に染みついているようだ。少し仮眠が取れた。目指す山頂が朝日に映えている。大樺沢の雪渓が見える、雪解け水が轟轟と野呂川に流れ込む。毎秒何十トンだろうか？肩の小屋からの夕日を見ることが出来るのは何年振りか？自分の体調の心配を忘れてわくわくする。富山副リーダーを先頭にゆっくりとしたペースで登る。しんがりは望月リーダー。良かった、このスピードなら付いていける。大樺沢の轟音は最初の北岳登山で私を引き付けたことを思い出させてくれた。

“ちゃっかり”

私の故郷では“朝日のちゃっかり”等と言って朝天气が良くて途中から崩れる時に使う。登るにつれてこのちゃっかり不安が絡んでくる。下山してくる人は、今朝は素晴らしい景色だったと聞くにつれて不安増幅。例年に比べてお花畑の花はいつもの華やかさは無く遅れていた。(裏を返すと北岳草はまだつぼみ、花が残っているかも。これは的中、初めて蕾を見た)

予定通り14時に肩の小屋到着、飲み物の差し入れをいただき一息。視界無く、雨が歓迎してくれた。(朝日のちゃっかりだったなあ)夕日も望めず、

3日間コース(7.10-12)

座学にて楽しい話を教授いただきました。この調子だと明日も天気は期待できないな。雨中下山か？残念。就寝。

“雲を切り開く天”

午前1時：寝ぼけ眼で空を見た。星が見えるではないか。よし、もう少し寝て夜明けを撮ろう。日出は4時半頃か、その前の黎明も綺麗だぜ。グルリンと見渡せる、富士、北アルプス、浅間山等、もちろん南アルプス、八ヶ岳車山、中央、皆雲に浮いている。朝食を早々に済まして頂上に向かう。7時前に山頂。天気はまだ持ちそう。天がご褒美にくれた朝日のちゃっかりであった。頂上直下、北岳草に出会う。蕾もあり、咲いているものあり、気候の遅れに感謝。

“八本歯のコルから二俣に下山”

空模様が雨になり、木の梯子の連続を滑らないように3点支持で下る。梯子を設置して頂いた方々に感謝しながら、ようやく梯子の階段が終わった。次は雪渓を下る。春の雪渓は怖い。サイレントストーン、富山さんが叫ぶ「ラク！！」石が3つほど滑り落ちてきた、落石だ。横切っていた方に当たらなくて良かった。ホットする。以来上部に気をつけて下りる。靴を滑らしながら楽しんだ雪渓下りであり満足した。(下山後の筋肉痛には苦労しましたが)

今回の登山は誰一人事故もなく、皆さん無事に登頂・下山、山頂での天候に恵まれ満足度の高いものであったと思います。まとめるにあたり、ガイドしていただきました望月さん、富山さんはもとより、計画をサポート、マネジメントされた芦安山岳館・ファンクラブの皆様に感謝申し上げます。機会があれば又皆様にお会い出来ますことを期待して。

中島 健一さん(静岡市清水区)

今年の山行計画を考え始めた3月に芦安ファンクラブのホームページに出会いました。HPの充実した内容に感心しつつ登山教室の開催案内を拝見、以前から登りたかった北岳のコースに迷うことなく申し込みをさせていただきました。

登山教室当日、集合場所の芦安山岳館へ向けて静岡市自宅を出発。中部横断道の開通区間が延長され南アルプス市が身近になってきました。

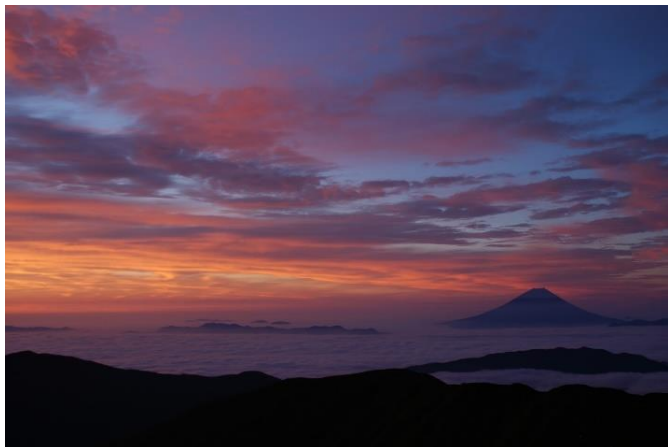
家内と初めての参加でしたが、スタッフの方々と参加者の皆さんはフレンドリーで、出発まで山岳館内を見学しました。館内展示物は興味深く、新天皇(浩宮様)が昭和62年に北岳に登頂された写真を見て気持ちが高まりました。

登山教室の3日間は、雨も降りましたが総じて風もなく稜線上も穏やかで、高山植物を觀賞しながら登頂させていただきました。(さすが日本第二の高峰、眺望を含め充実感があります)

宿泊先の白根御池小屋では2日間座学をしていただきました。初日は安全登山の10か条についてのお話。当日は負傷者を搬送している救助隊とすれ違う場面もありましたが、井口さんの長年の豊富な経験に基づくお話・ご忠告は肝に銘じたいと思います。

2日目は登山中に会った高山植物(花)を図鑑を見ながら振り返っていただきました。花輪さんの知識と記憶力には脱帽です。北岳も然ることながら、ファンクラブ・スタッフの方の知識・山行経験も百花繚乱でした。

今回は貴重な登山体験をさせていただき有り難うございました。個人で山行した場合に比べ、得られた知識が格段に多く充実した楽しい3日間でした。



中島 妙美さん（静岡市清水区）

広河原で、野呂川にかかる吊り橋を初めて見たのは、昨年の鳳凰三山の帰りであった。芦安行きバス停に向かう途中、吊り橋を渡ってくる大勢の若者に出くわした。皆、北岳から下山してきた者達であった。その時、私も是非吊り橋の向こうの北岳へ、と思ったのであるが、意外にその時が早くやって来た。主人が芦安ファンクラブ企画の登山教室を見つけたのである。地元の人企画で、自慢の山に連れて行ってくれる、まさに私達の希望するものであった。

初日は、広河原山荘から短時間ながら急峻な樹林帯を休み休み登っていった。梅雨時の不安定な天気ながら、白根御池小屋まで雨に降られず幸いであった。着いた山小屋はとても新しく、清潔で快適であった。今まで利用した小屋の中でもピカイチである。若いスタッフの笑顔とおもてなし、山の上にこんな設備の整った小屋があるものだと感心するばかりであった。

翌日はいよいよ山頂へ出発。白根御池から初めて北岳東面のバットレスを望む。今にも襲いかかって来そうな、うなだれた大きな岩の塊。あれが目指す北岳山頂なのだろうか？仙丈ヶ岳から見た時は、間ノ岳に長く延びていく稜線上に雄大な姿があったように記憶するが……。今にも手が届きそうで、簡単に山頂にたどり着けそうな錯覚に陥ってしまった。ところが、草すべりを登っていくと大きな岩塊は次第に小さくなり遠ざかっていく。まるで逃げていってしまうかの様である。不思議である。アプローチが長いと言われる所以であろうか？やっこのことで稜線へたどり着く。パッとパノラマが開け、仙丈ヶ岳、鋸岳、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳、鳳凰三山そして富士山が目にとび込んでくる。高いところまで登ったものである。そして、ごほうびの様なお花畑が始まるのである。右傾面には、一面の這松に、キバナシャクナゲ、シナノキンバイ、ハクサンイチゲ、左傾面には、岩にへばり付いたイワウメ、イワベンケイ、チョウノスケソウ。この楽しみがあるから辛い山行が楽しみに変わるのであろう、きっと。そんなこんなで、3, 193 m北岳山頂だ、ヤッター。

生憎、山頂は真っ白な霧の中。間ノ岳、農鳥岳へと伸びていく稜線も真っ白。今回はおあずけ。北岳固有種のキタダケソウも天候不順の為雲隠れ。残念だがお目にかかれなかった。次回への目標にしようと思う。帰りは小太郎尾根分岐から右俣コースで小屋へ。

最終日は大樺沢を下り、大きな雪渓を横目に沢添いをひたすら下った。7月だと言うのに多くの雪が残り、雪解け水がすさまじい勢いで沢に流れていく様は恐いくらいであった。

3日間、北岳のいろいろな顔を見ることができた。ゆとりコースでこそ楽しめた3日間であったと思う。小屋での安全登山についての夜学、出会ったお花の勉強会、お茶を飲みながらの雑学、どれもこれもとても楽しかった。

先頭を歩いてくれたリーダー、最後尾で気配りしてくれたサブリーダー、真ん中で楽しくおしゃべりした皆さん、お世話になりました。



シナノキンバイ



ハクサンイチゲ



ハクサンチドリ

上條 晴夫さん（長野県上伊那郡宮田村）

家に帰り今回の登山教室の充実した山行きの感慨にふけりながら、いただいた資料に目を通し、まず芦安ファンクラブの南アルプスへの熱い思いと数々の苦難の活動に敬意を表したいと思います。今回の北岳登山の成功もその活躍のおかげと感謝申し上げます。

ファンクラブの会員でもなく、しかも県外からの初参加で取り入れられるのか不安を持っての参加でしたが、広河原での合流で温かい歓迎を受け不安も吹っ飛び、夢の北岳登山に対する意欲が増しました。

経験に裏付けされた、井口ガイド、花輪ガイドのもと、状況に合わせたコース選択と高山植物の案内をいただき、厳しい山道でしたがたくさんの高山植物に励まされての急登を感じさせない登山ができましたし、天候も晴れ、霧、霧雨、雨と様々な状況も体験でき、今後の登山に良い判断材料ができたと感じています。そして三日間の登山には自分自身の体力不足（三日目の下り）を感じ、まだまだ鍛えなければと感じました。

二泊での山小屋では「安全登山の10か条」、「高山植物」の座学や貴重な体験談を聞いたり、それぞれが情報交換をしたりして、私にとりましては本当に充実した三日間で、広河原での皆さんとの別れには男ごころに淋しさも感じました。

74歳から始めた登山、夢は家から見える高山に登ること。幸い家は伊那谷の中で里山が沢山あり、体力を鍛えるのには申し分なく、今回も登山に備えて毎週標高差300メートル以上ある山をターゲットに週1で登ってきました。75歳過ぎると先は不透明です。仙丈ヶ岳は昨年登り、北岳は今回登らせていただき、南アルプスでは残り甲斐駒ヶ岳と間ノ岳。今回の教室で単独登山の怖さを学びましたので、考えを改め、勤め人の山仲間には申し訳ないが平日のツアーや教室に参加していこうと考えています。芦安ファンクラブのホームページを閲覧しタイミングが合いましたらまた参加させていただきます。以上 乱筆乱文ながら登山教室のお礼とさせていただきます。

畠山 忠利さん（山梨県南アルプス市）

天候は雨天時が多くあまり良くなかった。しかし、登山途中、花畑で花を見れて良かった。また、頂上で雲がかかっていたが何とか富士山、甲斐駒なども見られて良かった。

夕食後の登山教室は非常に良かった。「安全登山の10ヶ条」は、大変参考になり今後実践していきたい。「北岳の花」についても良かったです。

キタダケソウの花はまだつぼみだった。咲いているところが見たかったです。

ガイドの井口先生、花輪先生の登山途中の説明（山、花、木など）が良かった。

7度目の青春時代？で北岳登頂出来て良かった。

私の反省点は、登山途中、体調を崩してしまい、ガイドの井口先生、花輪先生、メンバーの方々に迷惑を掛けてしまったこと。何とか登頂、下山出来て良かったです。

皆さんに本当に感謝しております。本当に有り難うございました。今後体調崩さないように、体力作りをしていきたい。



山本 妙子さん（山梨県南アルプス市）

先日の登山教室のガイドのお二人、教室参加の皆様、楽しい登山教室ありがとうございました。個人的には古希記念登山でしたが、楽しく安全に登頂できた事、本当に皆様に感謝です。

一人参加と言う事もあり、心細く不安でしたが、ガイドのお二人のルートとペースの測り方等で無事に登頂する事が出来ました。一泊で登る方の多い山、二泊の計画である事が私の背を押してくれました。考えると、御池小屋から見上げた北岳の頂きは高く、登れるのかと思いましたが、天候の悪い中でも途中、富士山も見え、北アルプスも見え、頂上では雨もなく休む事が出来ました。下山は雨の中でしたが、私にとってとても素晴らしい記念登山になりました。

この登山が、下山してからも、修業の登山ではなかった事、山登りは楽しいと思えた事は、何にも変えられない良い思い出になりました。ありがとうございました。



芦安中学校全校登山を終えて

芦安中学校 登山委員会

委員長 松本さくら(3年)さん

私にとって、この全校登山が中学校生活最後でした。芦安中学校の伝統行事「全校登山」は多くの人に支えられ、全校で山の頂を目指す他の学校には無い行事です。今年は鳳凰三山に登りました。名前の通り「地藏岳」「観音岳」「薬師岳」の3つの頂上を目指して歩いていきました。正直、私はこの三年間で登る山として鳳凰三山が一番きつかったです。

一日目は景色もなかなか変わらず、雨も降っていて、次の日綺麗な御来光を迎えられるのか不安だったのを覚えています。先頭の班として2班と交代しながら、やっと薬師小屋に着いた時は肩の荷が下りてホッとしました。

二日目、朝3時45分に眠い目をこすり御来光を見に歩き出しました。少し登り、後ろをふり返ると、昨日まで私達の上にいる雲が広々とした雲海になっていて、ついため息が出ました。その後、薬師岳で見た御来光は疲れを吹き飛ばすほど幻想的で綺麗でした。

また、事前学習で学んだ地藏はとても可愛く、オベリスクは想像より大きくて迫力がありました。

この二日間、きつく長い道のりでしたが、私たちにとって忘れられない最高の思い出となりました。そして、今年、このメンバーで全員が無事に帰ってこられた事、それは支援者の方々のおかげだと思います。

1・2年生には、この感謝の気持ちを忘れず、これからも全校登山の歴史を引き継いでいってほしいです。

この三年間本当にありがとうございました。

【参加生徒数】 19名

1年生6名、2年生8名、3年生5名

1日目(7/7)

夜叉神峠登山口～夜叉神峠～杖立峠～南御室小屋～砂払岳～薬師岳小屋

2日目(7/8)

薬師岳小屋～薬師岳ご来光～薬師岳小屋～観音岳～地藏岳～高嶺～白鳳峠～白鳳三山登山口～広河原



芦安小学校登山を終えて

芦安ファンクラブ 富山 繁樹

北岳（標高第2位）にしる仙丈ヶ岳（同17位）にしる高山には「～岳」という名が付いた山が多い。翻って栗沢山、何となく取っ付き易そうな語感を感じないでしょうか？

6/28・29日、芦安小学校の5・6年生12名と先生方、サポートに地域おこし協力隊の中島さん・鈴木さん、ファンクラブから小林さんと富山が加わり栗沢山へ。前年度はあまりの強風の為、仙水峠で登頂を断念。6年生にとってはまさにリベンジ。前日まで天気予報をひたすら注視し祈る。

栗沢山（2714m）。仙水峠までは鼻歌交じりとはまでは行かないにしてもあばちゃばする元気があった子供たち。岩塊地形の話や河川争奪の話、植物相の遷移の話などに神妙な面持ちの子もいればあさっての方向～虫でもいたのかな？～を眺めている子も。甲斐駒を背負っての急登に口数も……減らずに結構上手な歌声が延々と続く。歌うと元気が出る！！音楽の力は偉大なり。500m近い急登りを登りきったと言うべきか歌いきったというべきか。たどり着いた山頂はガスで真っ白だったがなんととはなしに充実感が漂う。

3・4年生で夜叉神峠に登り、5・6年生で栗沢山へ、ステップアップは中学校でさらに加速する。その事に思いを馳せる幾人かの子供達の言葉が頼もしい。

むろん「山登りはえらいよ～やだよ～」と素直に嘆く姿にも愛嬌がある。それはやはり地元で国内屈指の山々を抱える芦安ならではの、なんだろうなあと。

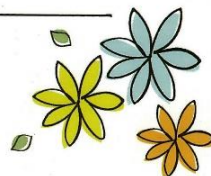
日中の登山でくたびれているのかいないのか？夕食後は星空・・・は見えず、替わって中島さんに織姫と彦星のいわれを聞く。ちゃんと働かないとイカンという話に耳が痛い。

翌朝は苔観察会。さっさか歩けば数分の短い区間に多様な苔たち。ニックネームをつけようという段になって、子供達の発想のジャンプ力はもの凄い。様々なエネルギーをわけてもらうことにいつも感謝。ありがとう、ありがとう。



先日の2日間は、ありがとうございます。1日目の登山の日は、たく丸の植物の写真を教えてくれてありがとうございます。登山中にドバババと雨で、すごくうれしかったです。花や植物の特性を教えてくださいました。あと少しのところで、ささく声をかけてくれて、すごく元気になりました。下山の時は楽しませてくれてありがとうございます。栗沢山登山はつらかったけど、楽しかったです。登山で教えてくれた植物はどれも好きです。先日はありがとうございました。

芦安小6年伊藤八造



高山蝶パトロールに参加して

芦安ファンクラブ 杉山 啓子

平成31年1月、私たちは長い間この時を待っていた。県は、新たに採集目的で捕獲され絶滅のおそれのある高山チョウなど15種を、採取・販売を規制する『山梨県希少動植物種の保護に関する条例』に追加指定した。条例には罰則規定も設けられている。

『2005レッドデータブック』の作成から10年以上が経過したため、県は、平成27年度から29年度までの3年間にわたり調査を行い、『2018山梨県レッドデータブック』を改訂した。この結果を受けて、追加指定が行われたのである。

追加指定された高山チョウは、コヒョウモンモドキ、オオイチモンジ、コヒオドシ、クモマベニヒカゲ、ミヤマシロチョウ、クモマツマキチョウ、ベニヒカゲの7種である。

平成24年、25年と連続して、地元紙が、国立公園に指定されている南アルプス・広河原周辺の林道で、高山植物のミヤマハタザオを無許可で採取したとして、自然公園法違反（高山植物採取）の疑いで、書類送検したと掲載している。ミヤマハタザオは、希少種のクモマツマキチョウが卵を産み付けることで知られ、「ミヤマハタザオに産み付けられた卵をふ化させて剥製にし、標本にしようと思った」と供述している。これは氷山の一角。専門家からは希少種保護のため、全域での規制を求める声が出ていた。

しかし、次に掲げる採取されやすい環境があったことは否めない。

- ① 希少な高山蝶の食草の自生地が多くは、北沢峠から山梨県側にあり、林道開通期間の早い伊那市側、特に歌宿まで開通する期間が例年4月25日頃と山梨県側より2ヶ月近く早いいため、徒歩で自生地まで向かうことが容易である。
- ② 長野県は、文化財保護条例で、高山蝶が天然記念物で指定され採取が禁止されていることに対して、山梨県の条例では、高山蝶のミヤマシロチョウのみの指定に留まり、採集に規制がない。

(国立公園特別保護地区を除く)

このため、国立公園内採取禁止植物の違法採取で規制が加わる以外、山梨県側で高山蝶の採取を規制する手段がない。

今年度、南アルプス市は、南アルプスに生息する高山チョウの乱獲を防ぐため、当クラブに、夜叉神峠入口から北沢峠までの林道、登山道入り口でのパトロールと啓発活動を業務委託した。

6月初旬、私たちは、長い間の悲願を噛みしめながら、活動を始めた。採取目的が疑われる入山者をチェックしながら、林道や北沢峠と広河原周辺、山小屋周辺で登山者やカメラマンに、高山チョウが山梨県側でも規制対象になったことを周知するチラシを配布し、保護を呼びかけた。

チョウは気にしていないと目に映らない。意識して探せば以外に多くのチョウが目にとまる。何度も通った林道で思いのほか多くのチョウに出会った。わくわくする出会いの楽しみ、そして調べる楽しみ、季節の移ろいや環境の変化にも気づかせてくれた。チョウの観察を重ねるうち、それを取り巻く様々な動植物にも気づくようになった。

林道沿いのミヤマハタザオが刈り取られていたり、生息地に土砂が置かれていたり、生息地における工事許可や草刈等作業許可申請、生息地環境のモニタリング等を義務化することが必要だと感じた。チョウを保全するばかりでなく、チョウの生息環境を保全しなければ真の保全には当たらないことも感じた。高山チョウのパトロール活動は、6月から8月までの全25回、2人体制で会員の多くが参加し、私にとっても様々なことを気づかせてくれる機会となった。

